

〔神戸アドベンチスト病院 地域医療（産婦人科・小児科）〕

【研修内容と特徴】

140年前、米国ミシガン州のバトルクリークから始まったアドベンチスト医療は、「全人的癒しをめざして（To Make Man Whole）」をモットーに掲げてきました。私たちの医療が、単に身体の治療だけではなく、人間全体の癒しをめざすものでありたいと願い、当院では「キリストの愛と確かな医療をもって心と体の癒しをめざします」との理念を掲げている。

産婦人科は産科部門・婦人科部門・不妊部門に分かれており、それぞれが特殊な専門性を持った医療を提供している。産科部門では24時間体制の無痛分娩（和痛分娩）を行っており、年間約300人の妊婦様（当院分娩例の約6割）が無痛分娩をされており、大変満足され高評価をいただいている。通常業務として無痛分娩を行っているため、常時無痛分娩の研修が可能である。婦人科部門では子宮疾患に対して開腹手術ではなく子宮鏡下手術を中心に行っており、また骨盤臓器脱疾患に対してもメッシュをはじめ最先端な様々な術式を展開しており、子宮鏡下手術・骨盤臓器脱手術においては共に日本有数の手術件数を誇っている。また不妊部門では、一般不妊検査・治療から顕微授精まで行っている。医師には話しづらい相談や質問に対しては、認定不妊カウンセラーが親切丁寧に対応し心のケアをも行っている。

小児科では、新生児から青少年期（中学生）までの幅広い範囲でケアを行っている。少子化が問題となっている昨今ですが、子育てに悩みや問題を抱えている方々も数多くいる。そのような方々が気軽に診察・相談を受けることのできるケアを目指している。また、特定機能病院の小児科と異なり、全くの初診患者が対象となる。症状を訴えることのできない患児の中から専門医療機関へ紹介を要する疾患を見極める能力が求められる。

【研修の実際】

① 一般目標（GIO）

<産婦人科>

産科部門：正常の妊娠・分娩・産褥の管理に必要な知識を修得し、それから逸脱する徴候を早期に見つけることができる。

婦人科部門：女性の骨盤内臓器の解剖および生理機能を理解し、良性・悪性疾患の検査・診断・治療を修得する。

生殖医療部門：月経周期におけるホルモン動態から妊娠に至るまでのプロセスを系統的に理解し、各種検査法や治療法を修得し、また体外受精が行われている実際の現場を見学する。

<小児科> 新生児および小児を全人的に診察できる医師となるべく研修を目標としている。新生児および小児の診察・診断・治療に必要な徴候を正しくとらえ、基本的疾患における初期対応の知識と技術を修得し、また、保護者との信頼関係の構築およびコミュニケーションが取れるようになることも研修する。

② 行動目標（SBO）

<産婦人科>

1. 産婦人科領域の基本的診断法

- ・女性患者の心理に配慮しつつも必要不可欠な月経、妊娠歴のほか性にかかわる問診と病歴の把握ができる。

- ・原因検索のための適切な検査（ホルモン値、腫瘍マーカー、画像診断）をオーダーすることができ、分析ができる。

2. 産科部門

- ・妊娠検診の一般的手技を説明できる。
- ・胎児心拍数図を正しく評価できる。
- ・基礎的な産科超音波断層法（胎児計測、胎児および付属物の異常）の分析ができる。
- ・正常妊娠における母体変化の評価と胎児の発育、成熟の評価ができる。
- ・合併症妊娠についての基礎的知識を修得する。
- ・異常妊娠および異常分娩における胎児の病態の特徴を説明できる。
- ・無痛分娩の仕組みを理解する。
- ・正常分娩、異常分娩を経験する。
- ・自然分娩と無痛分娩の違いを経験する。
- ・正常新生児の管理ができる。
- ・産科手術の基礎を修得する。

3. 婦人科部門

- ・問診からある程度の病変が推測できる。
- ・画像診断（超音波検査、CT、MRI など）ができ、内診所見と合わせて内、外性器の評価ができる。
- ・子宮頸癌、体癌のスクリーニング検査（細胞診）結果の判定ができる。
- ・コルポスコピーの所見が理解できる。
- ・子宮鏡検査の所見が理解できる。
- ・骨盤内臓器の解剖が理解でき、臓器脱の程度が評価できる。
- ・婦人科手術の基本的手技を修得する。
- ・術前、術後管理の基本を理解する。

4. 生殖医療部門

- ・月経周期におけるホルモン動態を説明できる。
- ・妊娠成立のメカニズムを説明できる。
- ・不妊症の原因、診断の進め方、治療法について説明できる。
- ・内分泌疾患について具体的に説明できる。
- ・腹腔鏡検査の適応および術式を列挙できる。

5. その他

- ・更年期以降の疾患について、病態、診断法、治療法を理解する。
- ・婦人科急性腹症の初期対応ができる。

<小児科>

- ・疾患を診るのではなく、小児およびその児を取り巻くすべてを診る全人的診察を基本として、小児の家族と良好な人間関係を確立できる。
- ・新生児・未熟児・先天異常症などの診断、治療に関する知識を修得する。
- ・新生児から小児の成長と発達、検査の正常値などを理解し年齢に適した評価ができる。
- ・正常小児の成長発達、小児保健（予防接種を含む）の基礎知識を理解し、家族に適切な指示、指導ができる。
- ・新生児および小児に対する診察法、検査法、治療法を修得する。

- ・新生児および小児のトリアージができ、緊急処置、蘇生法を修得する。
- ・周囲のスタッフとのコミュニケーション能力を持ち、チーム医療ができる。

③ 方略 (LS)

LS1 : 外来診察

- ・指導医と一緒に患者、患児の診療を担当し、患者、患児の家族への対応と医療面接について研修する。
- ・外来処置、検査を指導医の下に行う。

LS2 : 病棟診察

- ・指導医と一緒に患者、患児の診察を担当し、身体所見の取り方について研修する。
- ・指導医と一緒に患者、患児の診察を担当し、診察手技および検査手技を修得する。
- ・医局カンファレンスで担当患者のプレゼンテーションを行う。
- ・指導医と一緒に患者、患児の治療を行い、治療方法や薬剤に関する知識を修得する。
- ・指導医と一緒に患者の手術を助手として担当し、手術の基本手技を研修する。
- ・指導医と一緒に患者の手術を助手として担当し、他分野とコミュニケーションをとりチーム医療の重要性を研修する。

【研修評価 (EV)】

基本的にEPOCで評価する。

指導医等

産科部門：伊田 昌功

婦人科部門：辻 芳之、伊藤 善啓

生殖医療部門：半田 雅文

小児科：田原 俊夫

研修実施責任者

産婦人科：伊田 昌功